

3 4 5 6 7 8 9 340 1 2 3 4 5 6 7 8 9 350 1 2 3 4 5 6 7 8 9 360 1 2 3 4

林業資料 第五號

康德三年五月

林業事情

實業部 林務司

林業事情

一、林業及林政ノ沿革

1. 森林ノ概況
2. 森林面積及立木蓄積

I 主要樹種
II 針葉樹

三、木材ノ需給狀況

1. 木材ノ生産狀況
I 出廻狀況
II 市場及市價

2. 輸出入狀況
3. 消費狀況

四、林業ニ關スル政府ノ施設

1. 林政機關
2. 林場權ノ整理
3. 森林資源其他ノ調査

外國有林野ノ管理經營

- I 官行斫伐事業
 - II 集團伐採ノ實施
 - III 運材施設
 - IV 施業案ノ編成
 - V 林野官民有區分
 - VI 國有林野ノ保護
 - VII 造林並養苗事業
 - VIII 林業試驗
 - IX 林野副業ノ獎勵
5. 地方林政
- I 植林ノ獎勵
 - II 養苗
 - III 農村備林ノ造成
 - IV 野生有用鳥獸ノ保護

五 林業移民

六 林業會社

七 ハルプ工業

一、林業及林政ノ沿革

往古滿洲ノ地ハ通古斯族ガ之ヲ樹海ト稱シタ如ク鬱蒼タル森林ヲ以テ蔽ハレテキタ。近世ニ至リ清朝興起シ入關シテ中原ニ君臨スルヤ當時僅カニ百萬内外ニ過キサリシ滿洲民族ノ大半ヲ政策的見地ヨリ支那本部ニ移住セシメ、又一方滿洲ヲ祖宗發祥ノ地トシテ尊崇シ所謂四禁ノ制ノ下ニ之ヲ封禁シ開拓ヲ禁シ漢人ノ入滿ヲ阻止シタ。斯クテ滿洲ノ産業資源ハ全ク封禁セラレ其ノ儘後世ニ傳ヘラルルコトニナツタカ、ヤカテ隣接直隸、山東地方ニ於ケル人口ノ過剩、熾發セル天災、戰亂ノ結果、漢人ハ此ノ禁ヲ犯シ滿洲ノ沃土ヲ目指シテ盛ニ移住シ來リ、其ノ勢到底阻止シ難キニ到ツタノテ先ツ滿洲ノ一部ヲ解放シ移住開墾ヲ公許スルト共ニ更ニ對外的ニハ露國ノ東方侵略ニ備ヘ邊境ヲ維持スルノ必要上清朝末期ニハ寧口各地ニ招墾局ヲ設ケ滿洲移民ヲ獎勵スルコトトナツタ。

滿洲森林開發ノ歴史ハ約六十餘年前同治年間ニ始マル。當時清朝ハ初メテ東滿洲經營ニ轉シ、鴨綠江右岸ニ自由開墾耕作ヲ許シ同時ニ山東饑饉救濟ノ一策トシテ滿洲移民策ヲ講シ開拓ヲ獎勵シタ。爾來開拓ハ進捗シ、樹林ハ燒カレ鬱蒼タル美林ハ濫伐セララルニ至ツタ。然シ伐木ハ未タ移民ノ兼業ノ域ヲ出テス其ノ方法モ幼稚テ僅ニ農閑時ノ利用ニ過キナカツタ。

組織的ナ林業從業者ノ出タノハ光緒ノ初テアル。光緒三十四年（一八七七年）頃ニハ既ニ清朝ニヨツテ大東溝ニ木稅局ノ設立ヲ見、又歲入増加ヲ目的トシ伐木事業ハ獎勵サレ、斯クテ大東溝ハ北支ニ對スル木材ノ一大供給地トナツタ。隆テ光緒十八年（一八九二）、明治二五）ニ木植公司（官商合辦、資本金二十萬兩）ノ設立ヲ見タカ積年經營紊亂シ、且商民ノ怨恨ヲ買ヒ、事業ハ頗ル消沈シタ。

當時南下ニ奔命シツツアツタ帝政ロシアハ一九〇三年（光緒二九、明治三六）極東林業會社ヲ起シ鴨綠江森林伐採ノ實權ヲ獲得セシメ、又同年日清合辦ノ日清義盛公司ノ設立アリ、日露ノ國際關係危急ノ

折柄兩者ノ抗爭反目熾烈トナリ爲ニ採木事業モ大影響ヲ蒙ツタ。日露戰役後此地ノ林業ノ權益ハ日本ノ手中ニ歸シ光緒三十四年（一九〇八、明治四一）日清條約ニ基ク鴨綠江採木公司（日清政府合辦）ヲ設立シ鴨綠江上流森林ノ開發並ニ鴨綠江ト環江地方林業ノ統制ニ當ラシメタ。

吉林省ノ森林ハ圖們（獵場）或ハ貢山トシテ封禁セラレタ爲大天然林カ長ク存在シテキタ。此ノ寶庫モ山東移民ノ開墾ニ依ツテ開カレ當局モ亦之ヲ國庫收入ノ源泉トシテ利用シ爾來禁伐制ハ紊レ、荒地ノ拂下、長期伐採權ノ設定ヲ見ルニ至ツタ。

光緒三十三年（一九〇七、明治四〇）吉林勸業道ハ資本金壹萬元ヲ以テ吉林林業公司ヲ設立シ一般林業者ニ對スル山份（木代金）ノ徵收ト把頭（伐木請負者）ニ對スル資本金貸付ヲ行ハシメタルモ、內部紊亂ノ結果民國三年（一九一四、大正三）解散ノ止ムナキニ至ツタ。之ヨリ先、四合川（現五常、額穆縣地方）ノ森林開發ニ從事セ

3

吉興林業統局ノ事業モ失敗シ省政府當局ハ之ヲ改組シテ永衡林業公司ヲ起シタカ、之亦中華民國（大正）初年ノ大洪水ニ際シ災害ヲ蒙リ經營困難トナリタルヲ以テ更ニ本公司ヲ基トシテ省當局、官銀錢號其ノ他、高官士紳ノ出資ニ依リ、松江林業公司ヲ設立シタ。又一方永衡官銀錢號ニ額穆、敦化、樺甸三縣ニ亘ル面積約一五〇萬陌ノ國有林ノ伐採權ヲ附與シタ。

其ノ後世界大戰期ノ好況ニ乘シ日本資本ノ進出盛トナリ大倉、王子系ノ富寧、華林、豐材、興林ノ諸會社ノ設立ヲ見、其ノ他三井、三菱ノ出張所等續々投資シ一時吉林林業界ニ覇ヲ唱ヘタルモ、ヤカテ歐洲戰役後不況永衡官銀錢號林場（專採區域）トノ紛爭、外國資本ニ對スル軍閥・官憲ノ壓迫等ニ依リ次第ニ不振トナルニ至ツタ。

間島地方ハ古クカラ朝鮮火田民ノ移住ニ依リ濫墾ヲ受ケ森林ノ蠶食甚タシク、殊ニ明治初年ノ北鮮地方ノ大凶作ハ此ノ勢ヲ助長シタ。民國六、七年以降日本木材業者ハ盛ニ北鮮カラ此ノ地方ニ進出シ、

4

其ノ出資ニ依リ伐木事業勃興シ一時年額百數十萬石ノ出產ヲ見、所謂琿春材ノ名稱ノ下ニ盛ニ北鮮地方ニ輸出セラレタ。尙北京政府ハ民國八年汪清、延吉兩縣ノ森林ヲ國家直營林場ニ指定シ民間ヘノ解放ヲ禁止シタカ、直營スルニ至ラス其ノ殆ト全部カ解放セラレタ。

濱綏、濱洲沿線地方森林ノ開發ハ東支鐵道ノ建設ニ端ヲ發ス（光緒二四、西一八九八、明三一）。東支鐵道會社ハ其ノ建設用材、燃料等ヲ一八九六年（光緒二二、明治二九）ノ鐵道建設ニ關スル清國政府トノ約定ニ據リ沿線ノ森林ヨリ無條件ニ補給シ得ルモノト主張シ會社自身ハ勿論露商人モ亦隨時各所ニ於テ急激ナル濫伐ヲ行ツタ。清國當局ハ之ニ對シ抗議ヲ爲シ、先ツ木植公司ヲ設立シ山份ヲ徵收セシメ更ニ森林伐採ヲ統制セシメタ。次テ光緒三十三年（西一九〇七、明治四〇）ニ至リ東支鐵道會社トノ間ニ鐵道用材補給ニ關シ正式ニ協定ヲ締結シタ（舊黑龍江省管内ノ分ハ翌年成定）。カクテ同鐵道ノ完成ト共ニ次第ニ松花江下流地方及牡丹江方面ノ森林地帶モ

5

開發サルルニ至ツタ。

其ノ後露國當局並東支鐵道會社ハ鐵道ノ自衛ト露人移住ノ獎勵ノ爲メ露人伐採權獲得ニ努力シ又其ノ事業保護ノ爲メ幾多ノ便宜ヲ與ヘタ。又清國當局ハ露商ノ勢力ニ對抗スル爲自國人ニ對シテモ多クノ伐採權ヲ附與シ、更ニ中華民國ハ露國ノ勢力ヲ排除セムトシ法律ヲ以テ自國人以外ニ對スル伐採權ノ附與、森林ニ關スル權利ノ讓渡ヲ嚴禁シタカ露國側ノ壓迫ニ遭ヒ目的ヲ達シ得ナカツタノミナラス却テ伐採權ノ濫發トナリ拾集シ得ヘカラサル状態ヲ招來スルニ到ツタ。從ツテ此ノ地方ノ森林ノ伐採權獲得者ハ露人最モ多ク日本關係ハ濱綏沿線ニ於ケル中東海林採木公司、（東拓系、民國八年設立）中東製材公司（現中央採木公司、大正四年度設立）ト濱洲沿線ニ於ケル札免採木公司（滿鐵關係）ヲ數ヘ得ルニ過キイ。然シ其ノ後日本木材業者ニ對シテ露商經營ノ事業ニ對シ投資スルモノ多ク實權ハ次第ニ日本人ノ手ニ移リ來ツタ。

6

熱河地方ニハ從來圍場地方ヲ除イテハ見ルヘキ森林カナカツタ。圍場森林ハ其ノ名ノ示ス如ク清朝ノ獵場テアツテ固ク伐採ヲ禁セラレ長ク美林ヲ保ツテキタカ、中華民國トナリ解放セララルヤ忍チ急激ナル濫伐ニ遭ヒ近々十數年ヲ出テスシテ荒廢スルニ至ツタ。其ノ大部分ハ古北口經由天津、上海等ノ北支方面へ一部ハ多倫ヲ經由シ遠ク察哈爾方面ニ輸出セラレタ。

前述ノ如ク滿洲ノ森林ハ近世ニ至ル迄ハ殆ト未開發ノ狀態ニアツタカ近年ニ至リ急ニ之カ利用ヲ促進セララルルニ至ツタ動機ハ對内的ニハ山東其ノ他漢人移民ニ對スル清朝末期ノ解放政策テアリ、同時ニ對外的ニハ露國ノ東方侵略政策ニ依ルモノテアル。

然シ清朝ノ滿洲拓殖ニハ一定ノ計畫ナク、森林經營ノ如キニ到ツテハ何等ノ考慮ヲモ拂ハス、唯木稅局ヲ設ケ山份ノ徵收ヲ專トスルニ過キナカツタ。

右ノ事情ハ東支鐵道建設後ノ同鐵道沿線地方ニ於テモ同様テアル。

7

唯當時急激ニ増大セル露國ノ勢力ヲ排除セムトシ、森林伐採ノ統制ヲ行ヒ自國民ニ優先セシメムトセルニ特色ヲ見ルノミテアル。然シ遂ニ露人ノ森林伐採ヲ拒否スルヲ得ス、其ノ伐採許可ノ實際ハ唯森林收入ヲ獲ルヲ以テ満足シ、國有林經營ノ見地カラハ何等干涉スルトコロナカツタ。

以上ノ如ク清朝林政ノ施設トシテ見ルヘキモノハ皆無テアルカ、唯一ノ異例トシテ舉クヘキハ鴨綠江採木公司ノ設立テアル。即チ日清兩政府合辦ノ特殊會社タル同公司ヲシテ鴨綠江上流地方森林ノ開發ニ當ラシムルト共ニ、鴨綠江及琿江地方ノ林業ヲ統制セシメ東邊道ノ開發ニ貢獻セシメムトシタ。然シ其ノ設立ハ既ニ清朝ノ終末期テアリ其ノ業績ハ中華民國ノ林政ト共ニ論セラルヘキテアル。

中華民國政府ハ林業ヲ重視シ、先進各國ノ例ニ倣ヒ近代的林政ヲ樹立スヘク、建國匆匆林政要綱十一ヶ條ヲ發布シ民國三年ニハ森林法ヲ制定シ又一方林政機構ヲ整備スル等大ニ力ヲ林政ニ注イタカ如ク

8

テアル。其ノ方針ヲ概觀スレハ次ノ如クテアル。

一、森林國有主義ノ採用

一、保安林ノ設定

一、森林ノ保護並ニ造林ノ獎勵

一、國有林管理經營ノ統制

一、林產物處分方法ノ確立

林務行政ハ北京中央政府農林部（後農商部更ニ農工部、實業部トテシ
ラシテ主管セシメ）地方行政ニハ各省實業廳ヲシテ當ラシメ、特ニ東三
省國有林ニ就テハ其ノ管理機關トシテ農林部直屬ノ東三省林務總局ヲ
吉林ニ設置シ（後哈爾濱ニ移轉）哈爾濱及奉天ニ其ノ分局ヲ置キ、國
有林ニ關スル政務ヲ地方行政ヨリ分離シ、次テ民國六年東三省林務總
局ヲ廢止シ各省ニ農商部直屬ノ林務局ヲ設ケ要地ニ分局ヲ置キ、更ニ
民國七年吉林黑龍江借款成立ト共ニ吉、黑兩省ニ森林局ヲ設ケ國有林經
營ノ中央統制ヲ強化セムトシタ。又林政機構ヲ整備スルト共ニ國有林

9

產物處分、森林ノ保護、造林ノ獎勵、外國人ノ森林權享有禁止、天
然林國有等ニ關シ諸法令ノ制定ヲ見、林務行政ノ制度ハ一應其ノ形
態ヲ備フルコトニナツタ。

然シ乍ラ森林經營ノ實際ハ中央政府ノ無力、地方財政ノ窮乏、官憲
ノ腐敗等ノ結果悉ク右ノ理想ト背馳シ軍閥政權ノ稅政林政ニ於ケル
ヨリ甚ダシキモノハナカツタ。即チ中央政府ノ威力東三省ニ及ハサ
ルヤ中央政府直屬ノ營林機關モ事實ハ各省政府ノ支配下ニ歸シ、財
源ニ枯渴セル各省政府ハ林產物處分ノ統制法タル東三省國有林發放
規則ヲ惡用シ或ハ之ヲ廢止シ、森林開發、外人排墜ヲ名トシ國有林
伐採權ヲ濫發シ更ニ官商合辦林業會社ヲ設立スル等只管テ軍閥・官
憲ノ私慾ヲ逞マシウシタ。又北滿ニ於ケル露商ノ勢力ヲ驅逐セムト
シ却テ露國ノ強壓ニ遭ヒ更ニ多クノ伐採權ヲ露商ニ許與セサルヲ得
ナカツタ。カクテ東三省ノ主要森林ノ殆ト總テカ所謂林場ト化シ、
當局ハ單ニ山份ノ徵收ヲ事トシ森林ノ管理經營ニ就テハ何等積極的
施設ヲ行フコトナク、權利者亦自ラ事業ヲ經營スルコトナク把頭ヲ

10

シテ伐採ニ當ラシメ已ハ只權利金ヲ貪ルノミノ状態ニ在リ、斯クテ森林ハ荒廢ノ一途ヲ辿ルノミテアツタ。鴨綠江採木公司、中東海林公司、東支鐵道會社等モ亦、其ノ林場經營ニ於テハ之等民間森林利權ト其ノ類ヲ同フスルニ過キナカツタ。

東三省二十年ノ林政ノ實際ヲ概言スレハ、地方軍閥。官憲ノ私腹ヲ肥ス爲ニ森林ヲ犠牲ニシ後ニ全ク拾集困難ナル多クノ問題ヲ貽シタトイフニ過キナイ

二、森林ノ概況

滿洲ハ嘗テ鬱蒼タル密林ニ蔽ハレテキタ北支那一帶ノ森林區域ノ殘存ト見ラレテ居ル。即チ印度支那地方ヨリ東支那海岸ヲ經テ河北省、山海關ヲ超エ、シベリヤニ連續シタ大弧狀ノ森林ノ殘存ト稱セラレル。

此ノ地ハ清朝發祥ノ地トシテ乾隆ノ頃ヨリ伐木開墾ヲ禁セラレテキタカ、古來砂金、毛皮等ノ產地トシテ知ラレ、續々密獵者ノ侵入ヲ見、爲ニ森林ハ彼等ノ斃盡ヲ蒙ルトコト大テアツタ。封禁ノ制カ解放セラレテ以來、地形緩斜平坦、地味肥沃ニシテ農耕地トシテ有望ナル林地ハ著シク野火ノ害フ所トナツタカ、千古蓄積サレタ美林ハ今尙部分的ニ存在シ、ツングース族ノ所謂「森林ノ海」ノ呼稱ノ面影ヲ止メテキル。

滿洲ノ氣象ハ大陸的テ寒暑ノ差カ甚タシク、降水量ハ尠ク蒸發量大テ乾燥カ甚タシイ。四季ノ中夏冬ノ兩季著シク長ク、雨期ハ日本ニ比シ約一ヶ月遲レテ居リ、雨量ハ滿鐵沿線ニ於テ平均六百ミ

リテ日本内地ノ約三分ノ一、沿線以西ハ漸次減少シ、以東ハ漸次増大シ、舊北鐵沿線ニ於テハ平均五百ミリ程度テアル。湿度ハ年平均六〇%テ日本内地ヨリ一〇乃至二〇%少ク最モ乾燥スル月ハ四月テアル。温度ハ六月ニ稍高マリ、八月ニ於テ最高ヲ示ス。而シテ五月ヨリ九月迄ノ植物生育期間ハ極メテ温度カ高ク、且ツ此ノ期間ニ於テ年降水量ノ大部分ヲ占メ湿度カ最モ高イ事カ植物ノ生育ニ適シテ居ル。即チ滿洲ノ森林ハ自然的條件ニ恵マレテイルト云ハネハナラヌ。

森林地帯トシテ囑望サレテキル地域ハ松花江及其ノ支流、拉林河、圖們江、牡丹江、鴨綠江右岸並ニ其ノ支流、渾江ノ上流ノ地域、濱北沿線ノ一部及大。小興安嶺圈内ニ屬シ、奉天省北部、呼倫貝爾西南、錦州、熱河ヲ扼スル所謂蒙古地域ハ森林ト稱スヘキ地帯ハ極メテ稀テ、曠漠タル草原、砂丘、山岳カ連續スルニ過キナイ。

13

(1) 森林面積及立木蓄積量

本部林務司ノ概査ニ據ル全滿林野面積總計ハ約八千八百萬陌（一陌一〇〇八三三町步）其ノ中立木地面積ハ約二千二百萬陌テアツテ、差引無慮六千六百萬陌ノ無立木地域カ殘サレテキル。

立木蓄積量ハ總計約三十七億立方米即チ約百三十三億石（一立方米三五九三七石）ト推定セラレ其ノ中潤葉樹立木蓄積量ハ約二十二億三千萬立方米、針葉樹蓄積量ハ約十四億七千萬立方米ト推定サレテキル（別表A參照）。

(2) 主要樹種

滿洲ノ森林ハ之ヲ森林植物帶上ヨリ觀レハ溫帶北部ニ屬スルモノモアルカ其ノ主要ナル部分ハ寒帶ノ圈内ニ屬スルモノテアル。而シテ滿洲ノ森林ヲ構成スル樹種ノ數ハ既ニ知ラレタルモノノミテモ約三五〇有餘種ノ多キニ達スル。其ノ中有用樹種ト認ムヘキモノハ針葉樹八、潤葉樹二十一種テ之ヲ列記スレハ左ノ如クテアル。

14

I 針葉樹

日本名

滿洲名

屬名

(備考)

○テウセンマツ

果松 (裸松、紅松)

マツ屬

(紅松)

○テウセンタウヒ

魚鱗松

タウヒ屬

(白松)

○ダフリカカラマツ

黃花松

カラマツ屬

○タウシラベ

臭松

モミ屬

(白松)

○テウセンモミ

杉松 (沙柏、柏松)

ノ屬

(白松)

○エゾマツ

魚鱗松

タウヒ屬

(白松)

○テウセンカラマツ

黃花松

カラマツ屬

「マンシウアカマツ」

油松

マツ屬

II 闊葉樹

○カウライミツナラ

柞樹

ナラ屬

○アムールシナノキ

椴樹

シナノキ屬

「オニメグスリ」

寧斬樹

槭屬

○ヤチダモ

水曲柳

トネリコ屬 (鹽地)

ハルニレ

榆樹

榆屬

キハダ

黃木 (黃波橙)

キハダ屬

テウセンヤマナラシ

白楊樹

樺屬

「シラカンバ」

樺樹

樺屬

ヲノオレカンバ

檀樹

ノ屬

「カライヌエンジュ」

槐樹

イヌエンジュ屬

○モンゴリナラ

柞樹

ナラ屬

○マンシウシナノキ

椴樹

シナノキ屬

「マンシウカヘデ」

白牛

槭屬

○イタヤカヘデ 色 樹
 「オヒヨウニレ」 榆 樹
 ○マンシウクルミ 榲桲 樹
 ○ドロノキ 青楊樹
 「テウセンミネバリ」 董樺樹
 「ホホミノユレ」 董榆樹
 「マンシウハシドイ」 跑馬子 (暴馬子)
 「ヤマナシ」 梨 樹
 「備考」○印ヲ附セルモノハ現今相當産出サレ「」ヲ附セルモノハ殆
 ト産出ヲ見ス

別表 A 林野面積及立木蓄積量

省 名	林野面積 (單位陌)			立木蓄積量 (單位立方米)			
	立木地	無立木地	合 計	針葉樹	闊葉樹	合 計	
全 國	219427000	65793775	285215736	43521157	6646716	222841078	43705057.500
吉 林	9968000	36093402	46061402	121640220	70731780	192372000	
龍 江	11806000	68003342	79809342	38823415	142741085	181564500	
黑 河	46810000	41838434	88648434	227293595	510589405	807883000	
三 江	26028000	44745156	72773156	187146498	255388502	442535000	
濱 江	21196000	59150350	80346350	109619508	165883992	275503500	
間 島	12336000	9176896	21512896	85022187	84431813	169454000	
安 東	6208000	25053766	31261766	55219598	68296902	123516500	
奉 天	2489000	38890362	41379362	6654015	24531985	31186000	
錦 州		24484523	24484523				
熱 河	620000	65892211	66512211	1671000	3984000	5655000	
興 安 西南東北)	81966000	24260931	103245753	10	573556680	901831320	1475388000

三、木材需給狀況

(1) 生産狀況

1 出廻狀況

我國ノ木材生産狀況ヲ見ルニ建國前數ケ年ハ產出量大約三百八十餘萬石テアツタカ建國當初二ケ年ハ諸種ノ事情ニ依リ甚シク生産ノ低減ヲ來シ二百八、九十萬石程度トナツタ。其ノ後國內ノ制度整ヒ各種事業勃興シ木材需給ノ昂進ニ伴ヒ其ノ生産モ甚シク刺戟セラレ康徳元年（昭和九年）度ニ於テハ四百十四萬石ノ生産ヲ見タ。其ノ概況ヲ地方別ニ述フレハ次ノ如クテアル。

鴨綠江材

鴨綠江本流及支流渾江上流地方ノ森林（長白山脈及龍岡嶺ノ東南斜面ノ森林）ヨリ伐採セラレ安東ニ流筏セララルモノヲ鴨綠江材ト稱ス

康徳元年度ニ於ケル安東着筏數量ハ百十一萬石ヲ算シ、樹種ハ紅松、杉松、落葉松及油松等ノ針葉樹ヲ主トシ闊葉樹トシテハシホジ、ニレ、シナ、クルミ、ナラ、キハダ及ドロヤナギ等カアル。

19

材種ハ角、丸、電柱小丸太（足場丸太）大沼荒（大丸太）駝扛（長八尺位ノ小丸太）有稍丸子（尖端アル小丸太）帆柱材及棺材料子等テアル。材長ハ一連半、二連、三連及四連物等テアツテ一連ノ長サハ八尺ヲ基準トスルモ鴨綠江採木公司直營材ノ一連ハ八尺五寸見當、料棧材ノ一連ハ十尺乃至十一尺見當テアル。

安奉沿線材

本沿線ニ於テ生産セラレタ數量ハ約貳拾萬石ニシテ樹種ハ鴨綠江材ト略等シク、材種ハ主トシテ小丸太、坑木等テアル。

吉林材

松花江上流流域ニテ生産セラレ水運ニヨリテ吉林ニ出材セララルモノヲ吉林材ト稱シ、其ノ出廻數量ハ拾萬石位ニシテ樹種ハ主ニ紅松、杉松、落葉松、シラジ、シナ、ドロ及クルミ等ニシテ、材種ハ棺材ノ如キ特殊材以外ハ概ネ丸太ニシテ、材長三六尺モノ最モ多イ。

京圖沿線材

老爺嶺、張廣才嶺、牡丹江上流ノ牡丹嶺及哈爾巴嶺山脈ノ森林地帶ヨリ伐採セラレ京圖沿線各驛ニ出材セララルモノヲ京圖沿線材ト總稱ス

ル。
康徳元年度ノ出材數量ハ七拾八萬石ノ多キニ達シ全國出產量ノ約三割ヲ占メ、樹種ハ吉林材ト略同様ニシテ針葉樹テハ紅松最モ多ク、松、落葉松之レニ次キ、瀟葉樹ハシヲジ、ナラ、ニレ、ドロ、シナ、クルミ、キハダ等テアル。

材種ハ主ニ角材、徑級尺三上ノ良材テアル。瀟葉樹ノ中シヲジ、キハダハ建築用材及枕木材、クルミハ軍用材、シナ、ドロハ隣寸ノ軸木又ハベニヤ材トシテ利用セラレ他ハ主ニ祝木ニ造材セラレテキル。材長ハ大別シテ一二尺、一六尺及三四尺テアル。

間島材

本材ハ圖們江本支流及琿春河流域ヨリ搬出セラルルモノテハ其ノ生産數量ハ約四拾貳萬石ニ上リ其ノ中主ナルモノハ紅松ノ角及丸太ニシテ材長二六尺、徑級尺三上ノ良材ヲ普通トシ他ニ杉松、落葉松、クルミシヲジ、テウセンヤマナラシ等ヲ產出スル。

北滿材

21

老爺嶺山脈、小白山脈及穆稜窩集嶺等ノ森林地帯ヨリ伐採セラレ濱綏綏沿綫ニ搬出セラルルモノ、松花江下流、湯原、依蘭、通河ノ各縣ヨリ出材セラルルモノ並ニ大興安嶺及小興安嶺方面ヨリ搬出セラルルモノヲ總括シテ北滿材ト稱スル。

濱綏沿綫ニ於テ約百拾萬石、松花江下流ニ於テ約二拾萬石、大興安嶺方面ニ於テ約拾萬石、計約百四拾萬石全出產量ノ約三割五分ノ出材ヲ見タ。

樹種ハ紅松最モ多ク殊ニ濱綏沿綫ニ於テ良材ヲ產出シ、落葉松ハ大興安嶺ニ最モ多ク他ニ杉松、シラカバ、ナラ、シヲジ、クルミ等カアル。材種ハ主ニ角材ニシテ材長ハ二五尺ヨリ二九尺ノ長物テアル。

22

II 市場及市價

前述ノ如ク、鴨綠江材ハ安東、松花江上流材ハ吉林、京圖沿線材ハ敦化、間島材ハ圖們、北滿材ハ牡丹江等ニ於テ主トシテ集散セラレ、其ノ中建築用材ハ、新京、奉天、哈爾濱、ノ大都市ヲ始メ安東、吉林、齊々哈爾等ニ於テ大半消費サレルカ最近新興都市牡丹江、佳木斯 等ノ需要モ亦著シイ。鐵道用材、土工用材ハ各地ニ於テ使用サレルカ特ニ北滿ニ於テ活發ナ消費カ行ハレテキル。建國後土建事業ノ勃興ニ伴ヒ木材市場モ好調ヲ示シ、市價モ從前ノ比テナイノミナラス一般物價ニ比較スルモ高騰ヲ示シテキル。集散市場ニ於ケル現在ノ市價ハ別表Dノ如クテアリ又新京ノ康德二年度ノ平均市價ハ別表Eノ如クテアル。

尙、現在ノ處濱綏沿線ノ一部ヲ除ク他ノ大部分ノ地方ニ於ケル出材方法ハ全然機械力ヲ用ヒス、流水、解雪、結氷等ノ自然力ニ依ル關係上木材ノ搬出ハ天候ニ左右サルルコト多ク從ツテ木材市場ハ不安定テアリ勢ヒ伐採事業ハ投機的トナラサルヲ得ナイ狀態ニ

23

アル。鴨綠江材、吉林材等ノ如ク長途ノ流筏ニ依ルモノハ殊ニ甚タシイ。然シ政府ハ森林鐵道。軌條ノ敷設、林道ノ開設、河川ノ改修、網羽。土場ノ整理ヲ行ヒ運材方法ノ機械化、改善ヲ圖ル計畫テアルカラ此ノ弊害ハ近ク除去セラレルノテアル。

又生産費ハ運材施設ノ不備、勞働賃銀ノ高騰（治安ノ不定、食糧品ノ高價等ニ依ル）、伐木。造材。運材等生産各般ノ技術ノ拙劣等ノ爲著シク高ク現在百石當平均三五〇—四〇〇圓程懸ヲ要スル狀態テアル。然シ右ノ諸點ノ改善サルル近キ將來ニ於テハ二〇〇圓臺ニ節減サルル見込テアル。

斯クテ生産費ノ低減、伐採事業ノ安定カ圖ラレルト共ニ現在政府ハ木材生産ノ適正ナル統制ヲ着々實施シツツアルヲ以テ、木材市場ハ將來共健實順調ナル歩ヲ進メ得ルト豫想セラレル。

24

別表 D

市場別木材市價一覽表

市場別	紅		白		松		備考
	角丸	太	角丸	太	鹽地	柚角檜	
安東	四一七一	四一六二	三三六〇	四三二五	四九八二	七九四三	單位一立方尺、錢
吉林	六五七五	五五五〇	一五五四	一五〇七	五八〇六	五五七〇	
敦化	二一七〇	一五〇一	四四七一	五二四〇	一四二六	四一六八	
圖們	四二一七	三二一六	七三三一	五〇二八	一五三四	九一五〇	
牡丹江	六五六〇	一六六六	六二	六一			

別表 B 新京木材平均市價 (康德二年自壹月至拾貳月) (金圓建)

種別	材別	品質	單位	價格
紅松	柚角末口徑尺五上	上	一立方尺	〇、九七
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、八一
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、八二
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、七三
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、七四
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、六七
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、七四
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、七〇
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、七〇
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、七〇
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、六六
	丸太末口徑尺一尺三、二間物	上		〇、八五
	丸太末口徑尺一尺	上		〇、六八

鹽	地	柚角末口徑尺二上	二間物	上	一立方尺	一四六
胡	桃	柚角末口徑尺二上	二間物	並	、	〇九六
檜		柚角末口徑尺二上	二間物	並	、	一〇二
ラ	ワ	丸材末口徑尺二上	二間物	上	、	〇九六
杉		柚角三寸上	二間物	並	、	一〇四
		丸材末口徑一寸五分	二間物	並	、	〇九四
		徑二寸	二間物	並	、	〇八八
附	記	普通枕木			一挺	〇五七
		薪材			一〇〇立方尺	三〇〇〇
		木炭(白炭)			一〇〇斤	四五〇
		木炭(黒炭)			一〇〇斤	四二五

2 輸出入狀況

滿洲事變以前數ヶ年ノ木材貿易ハ輸出ニ於テ八拾五萬石乃至百四拾萬石ヲ算シ輸入ハ五拾萬石乃至八拾五萬石アリ年々拾萬石乃至九拾萬石ノ輸出超過テアツタカ滿洲事變直後ハ事變ノ影響ニ依リ木材貿易モ著シク減退シタ。其ノ後建國ニ依ル諸建設事業ノ勃興ノ爲ニ材ノ需要バ急増シ大同二年(昭和八年)以後ニ於テハ木材生産量ノ増大モ需要ノ旺盛ニ追隨スルコトヲ得ス材價ハ著シク昂騰シ爲ニ事變前ノ輸出超過ハ忽チ入超ニ逆轉シタ。即チ大同二年以後ノ日本内地及朝鮮其ノ他ヨリノ輸入額ハ飛躍的ニ激増シ大同二年ニハ二百二拾五萬石康徳元年ニハ二百六拾五萬石以上ニ達シ之ニ反シ輸出ハ半減シ大同二年四拾一萬石、康徳元年五拾五萬石トナリ差引キ大同元年百八拾四萬石、康徳元年二百拾萬石ノ尨大ナル輸入超過ヲ見タ。(別表B参照)

輸出ハ主トシテ鴨綠江材テ其ノ大半ハ朝鮮方面ニ、一部ハ北支方面ニ輸出セラレ朝鮮向ハ主ニ挽材、北支向ハ原木トシテ供給ザレル。

其ノ他ハ殆ト國內ニ於テ消費セラレ關島材及北滿材ノ一部良材カ日本及支那方面ニ輸出サルルニ過キナイ。
輸入材ハ北洋材（エゾマツ）、トドマツ、米材（米松）、日本材（杉丸太）、南洋材（ラワン、チーク、マホガニー）、中支那材（桐材其ノ他）及朝鮮材ノ一部テ凡テ特殊用材ニ限ラレテキル。
尙大同二年度及康德元年度ノ輸出入狀況ヲ各國別ニ示セハ別表〇ノ如クテアル

(3) 消費狀況

建國前五ヶ年即チ中華民國十六年（昭和二年）以降五ヶ年ニ於ケル木材消費量ヲ見ルニ木材貿易ハ輸入ニ於テ平均年約七拾萬石輸出ニ於テ約百拾萬石テアルカラ、國內產出量平均年額約三百八拾萬石トノ差引キ三百四拾萬石ヲ年平均消費量ト認メ得ル。

建國當初ハ國內ノ秩序未タ其ノ緒ニ就カス諸種ノ事業停滯シ木材消費量モ約百萬石以上ノ減少ヲ來シタカ大同二年以降ハ國內各地ニ於ケル建設工事ノ進展ニ伴ヒ木材ノ需要急増シ大同二年ニ於テ約五百萬石、康德元年ニ於テ六百貳拾萬石ノ飛躍的消費狀況ヲ示スニ至ツタ。（別表B参照）

而シテ從來ノ木材消費ハ一般建築用材、枕木、坑木、薪炭其ノ他少量ノ隣寸用材等ニ限ラレテキタカ最近林産工業ノ振興特ニバルブ工業ノ勃興ニ伴ヒ木材ノ消費量ハ更ニ激増スル見込テアル。

果年木材生產數量及輸出入量並消費數量（單位石）別表B

年別	國內生產量	輸出量	輸入量	消費量
民國十六年	3885.516	1411.000	470.500	2945.016
民國十七年	5118.571	1336.200	852.300	4634.671
民國十八年	3846.971	920.000	831.000	3757.971
民國十九年	3087.589	833.200	685.100	2949.489
民國二十年	3268.151	987.800	668.100	2948.451
康和元年	2833.685	675.000	482.000	2600.685
康和二年	2996.956	410.156	2258.141	4844.941
康和三年	4120.346	554.234	2656.332	6222.444

（備考）大同元年以前入滿洲產業統計 = 39

別表C

木材輸出入各國別內譯表（單位立方尺）

國別	年度		康元		年度	
	輸	入	輸	入	輸	出
日本	八四〇二一〇五	八九四三一	一三一六九二六七	八二一七六		
朝鮮	一〇五五九九二〇	九四〇五四一	九一五〇三〇二	二一八二七九		
中華民國	一一〇八〇〇	三〇六〇二二〇	三四三九二二	三二四六七五二		
蘇聯	二〇四二〇七二	八五二一	四六四九七四	二八九		
比律濱	二二四六四	一	一	一		
香港	二一八七	一	一	九六二九		
暹羅	一〇六〇	一	一四五九三	一		
北美合衆國	一三五九七六四	二八〇一	三二六六九一三	三〇九		
加奈陀	七一九六一	一	六〇〇三八	一		
濠洲	七五	一	一	三五七九		

計	南部聯邦	海峽植民地	獨逸	英吉利	國別年度	
					輸入	輸出
二二五八一四〇八	1	1	1	1	大	同
四一〇一五六〇	1	1	1	四六	年	度
二六五六三三一五	1	一四五九七	九〇〇三二	四二四	康	德元
五五四三三四二	一、二八一	1	二七	一八一二一	入	年
					輸	度
					出	

四、林業ニ關スル政府ノ施設

我カ國ノ森林ハ其ノ殆ト全部カ官有林テアルカ永年ニ亘ツテ全ク自由採取ノ状態ノ下ニ放置セラレ何等ノ保護管理ヲ受クルコトナカツタ。殊ニ清朝末民國ノ初木材需要ノ激増ニ際シ、當局ノ措置宜シキヲ得ス、無統制ニ國有林長期伐採權ヲ設定シ唯官憲ノ私慾ヲ滿スニ過キス、權利者又當局ノ此ノ態度ニ乘シ利益ノ趣ク處濫伐至ラサルナキ有様テアツタ。爲ニ從來無限ノ富庫ト稱セラレタ我カ國ノ森林モ其ノ林相良好、搬出利便ノ他ハ或ハ荒蕪ニ歸シ或ハ優良林木ノ絶滅ニ頻シツツアリ、又未利用ノ美林地帯ハ奧地ニ邊在シ其ノ利用開發ハ相當困難ナル状態テアル。

政府ハ右ノ事情ニ鑑ミ建國以來大ニ林政ヲ改革シ、先ツ國有林經營ノ合理化ヲ圖リ、森林資源ノ保護、國土保安、國民經濟、國家財政等ノ要ニ備ヘントシツツアル。

即チ

一、林政機構ヲ整備充實シ以テ全國森林ノ綜合的經營及國有林國營ノ

強化ヲ圖リ、森林ノ保護管理ノ徹底ヲ期シ

一、國有林長期伐採權ヲ整理シ國有林ノ合理的經營ヲ圓滑ナラシメ

一、森林資源ヲ精査シ將來ノ計劃ニ資シ

一、保安林ヲ造成シ治水、水源涵養、防風等森林ノ公益的機能ノ發揮ヲ圖リ

一、林產物處分方法、運材施設、林業組織等ヲ改善シ木材生産ノ合理化並林力ノ保續ヲ圖リ

一、林産工業ヲ振興シ林業ノ發展ニ資シ

一、未利用林ヲ開發シ山奥地ノ開拓ヲ進メ

一、林野副業ヲ興シ農家經濟ヲ潤澤ナラシメ

一、有用野生鳥獸ヲ保護増殖シ毛皮ノ増産並農産ノ保護ヲ圖リ

一、植林ヲ獎勵シ愛林思想ノ喚起ニ努メツツアル。

而シテ我カ林業政策ハ獨リ我カ國産業、國民經濟ノ重要部タルノミナラス、其當否ハ日滿兩國經濟ニ影響スルトコロ大ナルヲ以テ林業政策ノ實際ハ常ニ日滿經濟統制ノ方針ニ即セシメツツアリ、又刻下ノ狀況

35

ニ於テハ林業ノ經營ハ地方治安ト密接ナル關係ニ在ルヲ以テ特ニ森林伐採ハ治安工作ト緊密ナル聯繫ノ下ニ實施シツツアル。

右ノ方針ニ基キ左記事項ヲ計劃實施スルト共ニ國有林事業遂行ヲ圓滑ナラシメ以テ國庫收入ノ確保、増進ヲ圖リ、森林資源ノ保護培養ノ目的ヲ達成セムカ爲康徳三年度ヨリ國有林事業特別會計ヲ設置シタ(但蒙政部關係ヲ除ク)。

(以下施設事項ハ蒙政部關係ヲ除ク)

(ノ) 林政機關

現在、林務行政ハ實業部（主管林務司）總掌シ其ノ實行ニ在リテハ地方勸業事務ト固有林ニ關スル業務トヲ分離シ、前者ハ省公署並縣公署ヲシテ管掌セシメ、後者ハ實業部直轄ノ營林機關（森林事務所）ヲシテ擔當セシメテキル。

建國直前ニ於テハ、國有林ノ管理經營ハ省、縣其ノ他哈爾濱木石稅費總局等ニ依リ行ハレテキタカ各機關各樣ノ方法ヲ以テ國有林ノ利用ニ當リ、其ノ間連絡、統一ヲ缺キ國家政策ノ如キ片鱗モ窺ヒ得ナカツタ。

我カ政府ハ國有林ノ公共公益上ノ使命ヲ重視シ建國後直ニ、實業部ヲシテ國有林ノ管理經營ヲ統制セシメ、各省實業廳及縣公署ヲシテ其ノ實行ニ當ラシメタカ、實績擧ラサリシヲ以テ更ニ大同三年一月實業部直轄營林機關タル森林事務所ヲ設置シ先ツ京圖沿線地方國有林ノ經營ヲ擔當セシメ、爾後順次各地ニ森林事務所ヲ増置シ現在左ノ二十三森林事務所アリ、主要國有林ハ總テ（熱河省

ヲ除ク）森林事務所ノ管轄下ニ在ル。

名稱	所在地
朝陽鎮森林事務所	奉天省海龍縣朝陽鎮
安東	安東省安東縣安東
通化	安東省通化縣通化
撫松	安東省撫松縣撫松
安圖	間島省安圖縣安圖
琿春	間島省琿春縣琿春
延吉	間島省延吉縣延吉
敦化	吉林省敦化縣敦化
樺甸	吉林省樺甸縣樺甸
吉林	吉林市
五常	濱江省五常縣五常
哈爾濱	哈爾濱市

寧安森林事務所	濱江省寧安縣寧安
穆稜	濱江省穆稜縣穆稜站
勃利	三江省勃利縣勃利
依蘭	三江省依蘭縣依蘭
湯原	三江省湯原縣湯原
通河	三江省通河縣通河
綏化	濱江省綏化縣綏化
海倫	濱江省海倫縣海倫
北安鎮	龍江省龍鎮縣北安鎮
嫩江	龍江省嫩江縣嫩江
黑河	黑河省瑯瑯縣黑河

(尙本年度ニ於テ三江省方正縣方正ニ一所ヲ増設ノ豫定)

又濱綏沿線地方國有林產物處分事務ハ其ノ沿革上財政部管下哈爾濱木石稅捐局ヲシテ處理セシメテキタカ康德二年七月實業部ニ移

管シ林政機關ノ統一ヲ見ルニ至ツタ。

附 林業技術員ノ養成

産業發達ノ如何ハ指導者ニ負フ所甚大デアルコトニ鑑ミ、康德元年農林技術員養成所ヲ設ケ將來ノ技術官及指導員ヲ養成スルト共ニ、更ニ林務關係雇員ヲ日本ニ派遣シ營林業務ヲ實習セシメテキル。

(2) 林場權ノ整理

舊政權時代國有林ノ長期伐採權ノ濫伐ヲ見タルハ前述ノ如クデア
ルカ、其ノ成立ニハ鴨綠江採木公司、中東海林公司、東支鐵道會
社其ノ他露商關係ノモノノ如ク國際條約又ハ各省政府トノ協定ニ
基クモノト(特殊林場權)、國有林放章程、遼寧省國有林整理暫
行章程等ノ法令ニ據リ設立セラレタモノトカアル(一般林場權) Ⅱ
林場權整理法ニ所謂林場權)。東三省政府ノ末曠ニハ此等林場ハ
特殊林場 二一面積約六〇〇〇〇〇〇陌、一般林場 約二四一
積約二一三六四六〇〇〇陌、合計面積約八三六四六〇〇〇陌ニ達シ全國
主要森林ノ大部分ヲ占メル狀態テアツタ。
而シテ此等林場ハ國有林内ニ錯雜紛在シ、或ハ甲乙林場ノ重複ス
ルモノアリ、或ハ其ノ境界ノ明カナラサルモノアリ、或ハ其ノ位
置ノ判定ニサヘ苦シムモノアリ、斯クテ林場權者間ノ紛争常ニ起
リ林業經濟上ノ一大支障タルノミナラス、當局ノ國有林管理モ亦
到底行ハレ得ナカツタ。加之、林場權者ハ利益ノ赴ク所濫伐ヲ擅
4/

ニシ、界域ヲ超ヘテ盜伐ヲ敢テシ、伐採ニ際シ爾後ノ更新ヲ慮ルト
コロナク、爲ニ森林資源ハ蝕盡セラレ林地ハ荒廢シ、延ヒテ水源ハ
枯渴シ各種產業ノ發展ヲ阻碍スル有様トナリ、林場權ヲ此ノ儘存置
スルヲ許ササル狀態ニ到ツタ。茲ニ於テ中華民國政府モ漸ク林場權
ノ弊害ニ留意シ民國二十年、實業部管理國有林公有林暫行規則ヲ公
布シ林場權ノ設定ヲ禁止シ、既設林場ニ於ケル伐採ニ對シテモ森林
保護ノ立場ヨリ制限ヲ加ヘントシタ。
林場權ハ前記ノ弊害カラ見テモ其ノ儘放置シ得ナカツタノミナラス
林地ノ保藏上木材生産ヲ集約化セネハナラヌ、又市場關係ガラシテ
モ伐採ヲ統制スル必要アリ、此ノ點カラシテモ林場權ハ整理セラル
ル運命ニアツタ。

我カ政府ハ建國後先ツ各省ニ命シ林場權ノ設定並ニ其ノ讓渡ヲ禁止
シ、更ニ康德元年六月林場權整理法ノ制定及林場權審查委員會ノ設
置ヲ行ヒ一般林場權ノ整理ヲ斷行スルヲトシタ。
同法ノ規定ニ依レハ實業部大臣及蒙政部大臣ニ其ノ指定スル申請期

間内（康德元年六月二十日ヨリ同年九月十日迄）ニ伐採許可證ヲ提出シテ權利ノ審定ヲ申請セシメ、其ノ申請ニ基キ右兩者カ權利ノ存否、林場ノ所在及其ノ區域ニツキ審定ヲ行ヒ、其ノ審定ニ不服アル場合ハ林場權審査委員會ニ其ノ決定ヲ請求スルコトカ出來、而シテ右ノ審定ノ申請ヲナササルトキハ林場權ハ消滅スルコトニナツテキル。

右ノ規定ニ基キ適法有效ニ申請アリタルモノ一五二件（面積約三〇八九八〇〇陌）アツタカ、其ノ中一〇五件（面積約八九五四〇〇陌）ニツキ審定ヲ行ヒ、康德二年十月及同三年一月ノ二回ニ亘リ其ノ結果ヲ公告シタ（二件ヲ除キ總テ期間満了ニ依リ消滅）。尙右ノ中
 原林業公司ノ解散ニ依リ三件（面積約八〇九五〇〇陌）滿洲林業股份有限公司ノ設立ニ伴ヒ二九件（面積約二九六二〇〇陌）ノ消滅ヲ見、審定未了ノモノ一五件（面積約八八七〇〇陌）ヲ殘スニ過キナイ。斯クテ未決定ノモノ三九件面積約五八〇一〇〇陌（未審定ノモノ及ヒ審定ニ對シ不服申立中ノモノ二四件面積約四九一、四〇〇陌）

43

ヲ除キ他ハ總テ（約二〇二件面積一、七八四五〇〇陌、審定ニ依リ存續ト決セルモノモ現在既ニ期限到來）消滅ニ決定シタ。

特殊林場權ニ就テモ我林政方針ニ即シ適正ナル規整ヲ加ヘネハナラヌノテアルカ、此等ハ各々其ノ成立ノ經緯ヲ異ニシ、權利ノ内容モ亦一様ナラス、且ツ其ノ沿革古ク復雜テアツテ先ツ其ノ權利關係ヲ究明スル必要アリ目下調査中テアル。

此等ノ中舊吉林永衡官銀錢號ノ林場（面積約一、五〇〇、〇〇〇陌）ハ大同二年（昭和八年）十月滿洲中央銀行ヨリ回收シ、鴨綠江採木公司關係林場（面積約一四三、八〇〇陌）ハ日滿兩政府ノ協定ニ依リ康德七年（昭和十五年）九月ヲ以テ解消スルコトニ決定シタ。
 尙其ノ他ノ林場ニ就テモ康德二年七月以降、其ノ伐採ヲ一般國有林ニ於ケル伐採ト同様ニ取扱ヒ統制ヲ加ヘツツアル。

備考 本項記述ニハ蒙政部關係ヲ含ム。

興安省管内ノ林場ハ	
特殊林場	六 面積約 三九八〇〇〇陌
一般林場	一一 面積約 六三、五〇〇〇陌

(3) 森林資源其ノ他ノ調査

森林資源ノ調査

從來ノ森林調査資料ハ古ク且局部的テアツテ、我カ國森林ノ全貌ヲ示ス根據アリ信ヲ置クニ足ルモノハ得難カツタ。山地、老大、交通不便、治安不定等ノ爲調査カ至難テアツタ爲テアル。

現在テモ、地上ノ踏査ニ當リテハ同様ノ困難ニ遭遇シ、急速ニ行フコトハ到底望ミ得ナイノテアル。依テ森林ノ調査ハ航空視察及航空寫眞ニ依リ行フコトトシ大同二年四月以來事業ヲ繼續シテ居ル。即チ大同二年度ニ於テ全滿森林ノ視察ヲ了シ、康德二年度ヨリ航空寫眞ノ撮影ヲ開始シ、同年四百萬陌、二年度八十萬陌ヲ撮影シタ。更ニ本年度以降毎年二百萬陌ノ豫定ヲ以テ康德七、八年頃迄ニ主要森林全部撮影ヲ行フト共ニ、現地調査モ併セ行ヒ森林ノ現狀ヲ審カニスル計畫テアル。

荒廢地調査

將來造林ニ依リ荒廢地ヲ復舊スヘク康德二年度ヨリ主トシテ熱河

45

省ノ荒廢地ニ付調査ヲ進メテキル。

林產物市況調査

木材、薪炭ノ需給狀況、木材輸出入狀況、木材市價其ノ他林產物市況ニ關スル調査ハ常時行ツテキル。

46

(4) 國有林野ノ管理經營

國有林野ノ管理經營ハ前述ノ通り森林事務所ヲシテ擔當セシメ經營ノ中央統制、國有林園營ノ歩ヲ進メテ居ルカ之カ合理的積極的經營ニハ施業案ノ編成、林產物處分方法ノ改善、運材施設ノ整備、森林保護ノ施設等ヲ必要トスルカ目下着々其ノ實現ヲ圖リツツアル。從來林產物ノ處分ハ林場權ノ設定ニ見ルカ如ク單ニ伐採地域ヲ指定スルノミテアツテ伐採量ハ勿論、出材量サヘ制限シナカツタノテアル。建國後ハ先ツ出材量ノ制限ヲ行ヒ木材ノ需給關係ノ統制ヲナシツツアルカ、更ニ官行斫伐、立木拂下ヲ實施シ伐採量ノ制限ヲ行ヒ、木材利用ノ集約化、並天然更新ニ依ル林力ノ保護ヲ圖企シテキル。又此カ實施ノ前提要件テアル運材施設ハ其ノ利用關係等ヲ考慮シ主トシテ政府又ハ滿洲林業股份有限公司ニ於テ設備スル計畫テアル。

I 官行斫伐事業

國有林ノ合理的經營ノ第一着手トシテ國有林中主要地域ニ於ケル伐採ハ可及的速ニ官行ニ依ルコトトシ本年度ハ先ツ安圖、琿春、汪清、寧安各縣下ノ國有林ノ一部ニ於テ官行斫伐ヲ實施スル。

II 集團伐採ノ實施

昨年度ヨリ治安關係、林業經營上ノ見地ヨリシテ薪炭材以外ノ立木拂下ニハ集團伐採制ヲ採用シタ。

即チ治安關係、木材需給關係等ヲ考慮シ伐採地域ヲ限定シ伐採事業ヲ統制、指導スルト共ニ縣警察ヲ以テ其ノ警備ニ當ラシメタ。此ノ方法ハ當分繼續ノ見込テアル。

III 運材施設

從來濱綏沿線地方ノ一部以外ニハ運材施設ノ見ルヘキモノカナイ。木材生産ノ合理化、奥地未利用林ノ開發ニハ先ツ運材施設ノ整備改善ヲ急務トスル。

森林鐵道

本年度ハ官行斫伐ノ實施ニ伴ヒ左記三線ヲ敷設スル。

牡丹江線 濱江省寧安縣仙洞ヨリ二道河子上流ニ至ル七三籽

龍井線 間島省和龍縣龍井村ヨリ安圖縣五道楊岔ニ至ル七三籽

草皮溝線 間島省汪清縣三岔口ヨリ草皮溝上流ニ至ル四〇籽

林道

本年度百三十籽開設ノ豫定。

網場、土場

既設網場四ヶ所ノ外ニ本年度ハ網場四、土場七ヲ設置スル豫定テアル。

VI 施業案ノ編成

國有林野ノ經營ニ關シ地況、林況、植生、運搬、治水、水源涵養、市場關係等一般森林經營ノ基本調査ヲ行ヒ、事業區ヲ定メ、林班ヲ劃定シ經營方策ヲ確立スヘク本年度ハ調査班九班ヲ編成シ各班五萬町步計四十五萬町步ニ付簡易施業案ヲ編成スル豫定テアル。尙本事業ハ十五ヶ年計劃ヲ以テ六百七十五萬町步ノ國有林ニ付テ實施スル

49

計劃テアル。

V 林野官民有別區分

林野官民有ノ區分ヲ行ヒ林野行政ノ基礎ヲ確立スヘク先ツ本年度ヨリ三ヶ年計劃ヲ以テ主要森林地帯ノ土地調査ヲ行ヒ官地、民地ノ分野ヲ明ニスル。

VI 國有林野ノ保護

森林保護組合ノ設立

本年度ヨリ主要國有林地方二十ヶ所ニ森林保護組合ヲ設立シテ國有林ノ保護管理ノ補助機關トシテ活動セシメ併ハセテ地方治安維持ニ貢獻セシメル。

防火線ノ設置

防火樹帶ノ設定、防火線ノ伐開等ヲ行ヒ森林保護組合ノ協力ト相俟ツテ森林火災ノ防止ニ努ム。

VII 造林並養苗事業

造林

50

森林資源ノ培養、荒廢地復舊、治水、水源涵養、防風等ノ目的ヲ以テ大ニ造林事業ヲ起スヘク計劃中テアルカ之カ爲ニハ諸般ノ調査並試驗及苗木ノ養成ヲ必要トシ目下其ノ準備中テアル。

尙國都ノ水源淨月潭周圍ニ國營造林場ヲ設置シ、造林ヲ行ヒ水源涵養ヲ圖リツツアル。

養 苗

各森林事務所及淨月潭造林場ニ苗圃ヲ附設シ養苗ヲ行ヒ將來ノ造林ニ備ヘツツアル。

VIII 林業試験

本年度ヨリ官行斫伐、立木拂下ニ緊急必要ナル天然更新ニ關スル試験ヲ行ヒ、更ニ濶葉樹利用ニ關スル試験ヲ行フ豫定テアル。

IX 林野副業ノ獎勵

林野ニ於ケル農民副業ヲ興シ農業ノ多角化ト相俟ツテ農家經濟ノ更生ニ寄與スヘク差當リ先ツ森林伐採ニハ地元農民ヲ使用シ冬期勞働收入ノ途ヲ拓キ、又木炭ノ改良増産ヲ圖リ、尙黑江省地方ノ特産木耳ノ増殖ヲ獎勵シテキル。

51

(5) 地方林政

我國ノ森林ハ殆ト官有林テアツテ民有林カ無イ關係上、現在ノ處、地方林政トシテハ唯造林ノ獎勵ヲ舉ケ得ルニ過キナイ

I 植林獎勵

康德元年度ヨリ帝政紀念全國綠化運動ヲ開始シ植林ノ獎勵ニ努メ毎年四月穀雨ノ日ヲ期シ全國一齊ニ植樹節ヲ舉行シ、苗木ヲ配布シ(康德元年度百萬本、二年度五百萬本三年度三百五十萬本)、又映畫、講演、パンフレット、宣傳ポスター等ノ方法ニヨリ其ノ徹底ヲ圖リツツアル。

尙植樹愛林ノ思想ハ小國民ヨリ養成スヘク康德元、二年度ニ於テ二十六ヶ所ノ學校苗圃ヲ設置シテ養苗ノ實地指導ヲ行ツテキル。

II 養苗

將來ノ民間造林計畫ノ準備トシテ熱河、奉天兩省ノ既設三苗圃ノ外ニ本年度ヨリ新ニ八省營苗圃ヲ設置シ苗木ヲ養成スル計畫テアル

52

III 農村備林ノ造成

農村ニ於ケル薪炭用材ノ自給及農家副業等勸農ノ爲並ニ治水、水源涵養、防風、河川護岸等ノ關係ヲ考慮シ農村備林ヲ造成セシムヘク計畫中テアル。

IV 野生有用鳥獸ノ保護

近來有用鳥獸ハ漸減ノ傾向ニアルカ殊ニ毛皮獸ノ減少カ著シイ。鳥獸保護法ヲ制定シテ禁獵區、獵區狩獵方法ノ制限等ニ關スル規定ヲ設ケ有用鳥獸ノ保護増殖ヲ圖ルヘク目下準備中テアル

53

五 林業移民

我カ國ノ林業労働者ハ技術ニ於テ拙劣テアリ又森林ノ更新、森林ノ保護等ニ關シ無自覺ナルモノ多ク今後事業ノ經濟的ニ合理的經營ヲ行フニハ労働者ノ指導養成ヲ必要トスル。其ノ方法トシテ練達セル日本人労働者ヲ招致シテ滿人労働者ノ指導^誘按ニ當ラシメ、更ニ之ヲ移民トシテ定住セシムル方策ヲ講究シツツアル。今年最初ノ試ミトシテ官行斫伐事業ニ約百數拾名ヲ招致スル豫定テアル。

此ノ結果カ良好デアレハ將來大規模ノ林業移民ノ入殖カ充分可能テアル。

54

森林業會社

中華民國（大正）六、七年頃ノ財界ノ好況ヲ機ニ幾多ノ林業會社ノ濫立ヲ見タカ何レモ經營不振ヲ極メ現在ニ至ルマテ專業ヲ經營シ得タモノハ鴨綠江採木公司唯一トイフ狀態テアル。

當時外國資本（主トシテ日本資本）ノ斯業ヘノ進出目覺シキモノアツタカ、中華民國ハ法令ヲ以テ外國人又ハ外國法人ニヨル林業ノ經營ヲ嚴禁シ（但北鐵沿線地方ニ於ケル露商ノ經營ヲ除ク）尙華民國人又ハ其ノ合法的法人ニ限定シタ爲メ、此等外國資本家ハ何レモ東三省政府又ハ中華民國人ト合辦ノ下ニ中國法人ヲ設立シタ。

鴨綠江採木公司ノ如キ國際條約ニ基クモノハ別トシテ中日合辦ノ主ナルモノニ中東海林採木有限公司（專業地域、北鐵沿線地方）中東製材公司（北鐵沿線地方）華林製材公司、富寧造紙公司、豐材公司、吉省興林造紙公司（以上四何レモ吉林省、後此等ノ專業ハ王子太倉ノ共同會社タル共榮起業會社ニヨリ統一サレタ）アリ、純中國法人トシテハ鐵嶺森林公司（鐵嶺、嫩江兩縣）通原林業公司（通河、

55

湯原兩縣）黃川採木公司、興吉公司（以上三何レモ吉林省）等擧ケラレ、又中露合辦ニハ海敏採木公司（舊黑龍江省興安區）中日露三者合辦ニハ札免採木公司（舊黑龍江省興安區）カアル。又個人事業ノ主ナルモノニ北鐵沿線地方ニ露商方ワルスキ一及スキデルスキ一ノ經營アリ其ノ外東支鐵道會社モ其ノ沿線ニ於テ用材補給ノ爲採木事業ヲ經營シタ。

以上ノ中、中日合辦會社ノ中華民國側ノ出資ハ概テ日本側ヨリ款借又ハ立替ニヨリ行ハレ、又純中國法人テモ黃川採木公司ノ如キハ日本資本ニヨリ設立サレ、其ノ他モ後ニ至ツテ日本資本ノ融通ヲ受ケ又露商ノ經營ニ對シテモ日本人ノ投資スルモノ多ク、舊吉林省ノ林業ハ殆ト日本資本ニヨリ維持セラレタ感カアル。

而シテ此等林業會社ノ多クハ經營困難ニ陥リ難ニ有名無實ノ存在ニ了ツタノハ軍閥。官憲ノ貪婪、外國資本ニ對スル壓迫、治安ノ不定軍閥ノ抗爭、財界ノ不況等ノ理由ニ依ルカ、反面ニ於テ、外國資本家カ一時ノ好況ニ幻惑サレ實權獲得ヲ急キ奸竊ナル中華民國側ニ乘

56

セラレ、事業ノ着實化ニ留意セス粗放ナル經營ヲ爲シツツアツタコト
モ亦重大ナル原因テアル。

我政府ハ其ノ建國宣言ニ於テ門戶解放、機會均等ヲ明言シテキル如ク
林業ニ於テモ從來ノ鎖國政策ヲ廢棄シ、外國資本特ニ日本^(資本)移入ヲ歡
迎シ斯業ノ發展ヲ冀望シテキルノテアル。然シ前記林政ノ方針ニ示ス
如ク森林ノ經營ハ強固ナル統制下ニ在リ、又主要國有林ニ於ケル伐採
ハ官行斫伐ヲ建前トシテキルノテアツテ從來ノ如キ利權目的ノ投機的
企業ノ介入スル余地ハ全然ナイノテアル。

現存林業會社ノ主ナルモノハ次ノ如クテアル

(1) 滿洲林業股份有限公司 (特殊會社)

康德三年 (昭和十一年) 三月一日設立、資本金五百萬圓 (內譯政府
二百五十萬圓、滿鐵、共榮起業會社各百二十五萬圓)

本公司ハ國有林利用施設ノ現状ニ鑑ミ樺甸、額穆、敦化三縣及寧安縣
南部ノ國有林ヲ開發セシメ併セテ國內ノ木材需給ヲ圓滑ナラシムル
目的ヲ以テ設立セラレタノテアル。其ノ存立期間二十五ヶ年、本店

47
5

ハ新京、吉林ニ支店ヲ置ク。

(2) 鴨綠江採木公司 (日滿兩政府合辦)

光緒三十一年 (明治三十八年) 十二月ノ日清條約附屬協定第十條
ニ基キ三十四年九月資本金北洋銀三百萬圓 (日清兩政府折半、現
在國幣二百八拾萬圓) ヲ以テ創立サレ鴨綠江及琿江地方林業ノ開
發ヲ其ノ使命トシタ。

而シテ其ノ設立カ國際條約ニ基ク關係上軍閥・官憲ニ禱サルルコ
ト尠ク、其ノ鴨綠江上流國有林ノ專探權及鴨綠江及琿江地方林業
ノ統制權ヲ保持シ得其ノ事業モ比較的順調デアツタ。

大同二年 (昭和八年) 營業期間滿了シタルモ日滿兩政府ノ新協定
ニ依リ更ニ康德二年 (昭和十年) 九月二十五日ヨリ向フ五年即チ
康德七年 (昭和十五年) 九月二十四日迄營業期間ヲ延長スルコト
ニナツタ。

(3) 鴨綠江製材有限公司ハ本公司ト大倉組ト共同出資ニヨリ設
立サレタモノテアル。資本金百萬圓各半額出資)

(3) 中東海林採木公司 (日商、滿官合辦)

本公司ハ民國 (大正) 十三年一月中東實業公司 (中日合辦) ノ改組ニ際シ同公司ノ日本側株主 (東拓系) ト吉林省政府ノ合辦ニヨリ設立サレタ。資本金三百五十萬圓 (兩者折半) 存立期間三十五年。

專業不振ノ爲メ中華民國十六年 (昭和二年) 以來林業ヲ續ケテキタカ大同二年 (昭和八年) 秋ヨリ專業ヲ開始シタ。其專業區域ハ寧安縣大海林河流域及牡丹江支流頭道河子流域ノ國有林テアル。尙本店ハ哈爾濱ニアル。

(4) 札免採木公司 (政府、滿鐵、露商合辦)

最初露商シエフチエンコ兄弟商會ノ創業ニ係ル專業テアツタカ其ノ後滿鐵ト共同、更ニ黑龍江省政府ノ參加ヲ見、民國 (大正) 十一年公司組織トナツタモノテアルカ、十四年、中、日、露各出資者間ニ紛叫ヲ生シ公司ハ改組ノ止ムナキニ到リ、黑龍江政府ハ別ニ札免林業籌備處ヲ設ケ專業ヲ經繼スルト共ニ滿鐵トノ合辦組織

59

ニ依ル公司ノ復活ヲ圖ツシガ縣案ノ儘今日ニ及ンタ。

資本金六百萬圓 (前記三者同額出資) 專業地域ハ大興安嶺西部、札敦河及免渡河流域テアル。(蒙政部管内)

(5) 海敏採木公司 (政府、東支鐵道會社、露商合辦)

本公司モ亦露商ウオロンツオフ創業テアツタカ民國十六年十二月東支鐵道會社及黑龍江省政府ヲ加ヘ三者合辦ノ本公司ヲ設立スルコトニ決定シタカ其ノ後紛叫ヲ生シ公司ノ開業ハ^{定期}延期トナツタ。專業地域ハ大興安嶺西部、海拉爾河上流及伊敏河流域テアル。(蒙政部管内)

(6) 其ノ他

前記ノ外個人企業ノ主タルモノニ近藤公司、東泰洋行 (兩者共日本ノ經營) アザ、何レモ濱綏沿線地方國有林ニ於テ伐採專業ニ從事シテキル。

七、パルプ工業

「パルプ」工業ハ我滿洲ノ森林開發、産業振興上有利ノ事業デアリ
日本ニ於ケル「パルプ」需給狀況ニ鑑ミテモ其ノ振興發達ヲ促進ス
ヘキハ贅言ヲ要シナイ。

然シ斯業ニ對シテモ其ノ資材供給關係上即チ森林資源ノ利用開發狀
況並ニ一般用材ノ需給關係カラシテ制限ヲ加ヘル必要カアル。

此ノ意味ニ於テ「パルプ」工業ノ經營ハ認可制トシ、其ノ生産量ヲ
制限シ又資材モ政府ノ指定スル採木業者カラ供給シテ之ヲ統制スル
コトトナツタ。現在ノ處「パルプ」生産量年額四萬噸資材約六八萬
石トシ本年三月左記四會社ニ各生産量年額一萬噸ノ事業經營ヲ認可
シタ。

(1) 東滿洲人絹パルプ股份有限公司

(2) 滿洲パルプ工業股份有限公司

(3) 東洋パルプ股份有限公司

(4) 日滿パルプ製造股份有限公司

尙右ノ外既設ノ「パルプ」工業トシテハ鴨綠江製紙株式會社ノ經
營カアル。